

里仁第四

子曰、君子喩於義、小人喩於利。

子曰わく、君子は義に喩り、
小人は利に喩る。

(4-82)

<子曰わく、君子は義に喩り>

Q:「子曰わく、君子は義に喩り」とは何ですか。

A: (1)「孔子が言った。学徳ともにすぐれた君子と言われる人物は、義(道理にかなった正しいこと)に敏感であり」の意。

(2)「君子は物事に対して、すぐ道義を標準にして理解するが」の意。

(3)「君子・小人」とは、智と徳の有無をもって言う。

(4)「喩る」とは、「暁る」と同じ。すみやかに覚ること。理解すること。

(5)「義」とは、「自然の理にかなうこと」。道義、義理。

<小人は利に喩る>

Q:「小人は利に喩る」とは何ですか。

A: (1)「学徳のない、器小なさる小人は、利益に敏感である」の意。

(2)「小人は万事に対して、すぐ利になるかならぬかというように覚るものだ」の意。

(3)「利」とは、「利益、己の身を利すること、欲望にかなうこと」。

君子・小人

・何事も正しい義理を標準として考えていく者は君子。

利害に結びつけて物事を解決する者は小人。

階級意識で、君子と小人という種別を言ったものではない。

・同じ飴でも、老いた父母を養うのによいと思うのは君子。引き戸の下に流してやると音がしないで戸が開くと思うのは小人。

・村の豪農の蔵に米が満ち満ちているのを見て、飢餓の年にはこの村には餓死者が出ないと考えるのは君子。飢餓の年には大儲けができると覚るのは小人。